

東京大学史料室ニュース

第35号 2005・11・30

目次

特別展「第一高等学校創立130周年記念・駒場の歴史展」と旧制高等学校関連史料 ……2
 『渡邊洪基史料目録』の発刊に際して ……5
 受贈図書一覧 ……7
 史料室日誌抄録 ……8

本邦工業進歩ノ必要ヲ考ヘ工業關係ノ諸有志ノ協同ヲ以テ去ル明治二十一年二月私立工業學校ヲ創立シ有志者ノ寄付金ト工學者ノ篤志教養ヲ以テ既ニ一千三百餘名ノ卒業生ヲ出シ全帝國ノ新工業社會ニハ多少ノ工手學校卒業生ヲ利用スルニ到リ其公益不尠コトハ本校創立ニ與リタル者ノ欣躍措カサル所ナリ然ニ不幸本月九日祝融ノ災ニ罹リ全校舎烏有ニ歸セリ此工業勃興ノ時ニ當リ素養アル工手必要ノ機ニ際シ益々本校ノ隆盛ヲ期スルニ會シ此災害ニ遭フト雖モ本校ハ愈其本志ヲ勵シ直ニ假校舎ヲ搜索シテ其事業ヲ繼續シ并ヒテ舊地ニ新築ヲ經畫シ以テ帝國現今ノ緊急需要ニ應セシムコトヲ期ス希クハ有志諸君ノ捐助ヲ得テ本校ノ企望ヲ全カラシメンコトヲ


明治二十九年二月

衆議院議員
 小柳卯之助殿


特撰管理長 工手學校管理委員
 校長 渡邊洪基
 監事 中澤岩太
 全 工學博士 真野文二
 全 工學士 中野初子
 全 工學士 安永義章
 全 工學士 山川義太郎
 會計検査役 古市公成
 全 工學博士 辰野金吾
 會計主任 三好晋六郎
 工學博士 片山東熊
 工學博士 田邊胡郎
 工學博士 野呂景義
 工學士 曾楠達藏

追テ御捐助ノ金額及御押込ノ時日ハ東京市京橋區築地南小田原町私立工手學校燒失跡事務所一御通報被下度候也

事務区西須賀町吉田七五七
 小柳卯之助殿



特選管理長渡邊洪基
 工手學校



(立教大学図書館所蔵)

越後国西蒲原郡中之口村小柳家文書の中の渡邊洪基の書簡

1. はじめに

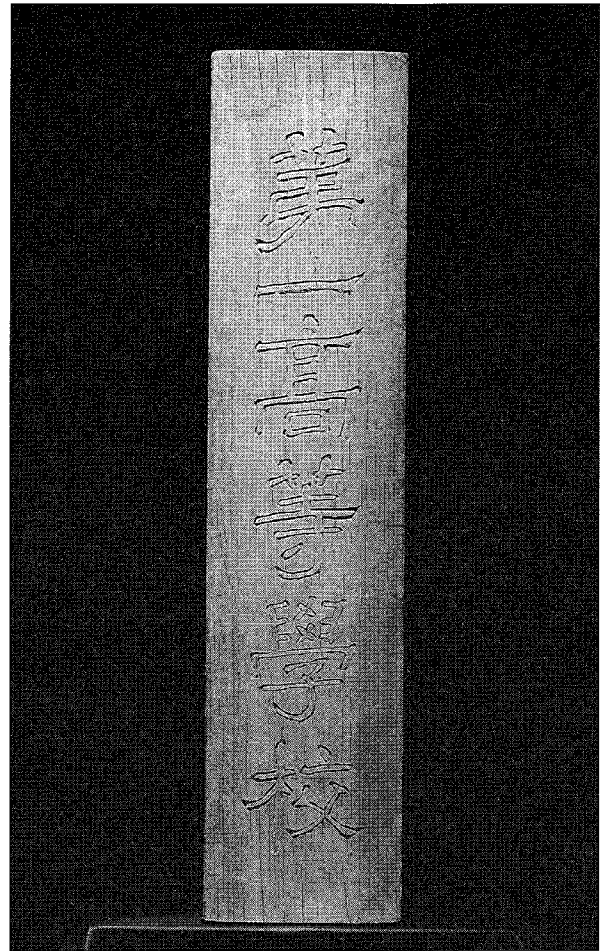
全国の国立大学が独立行政法人化した昨年、戦後の新制大学設立以来の大改革だったこともあり、各地で大学の歴史をふりかえる事業が行われたことを記憶されている方も多いことだろう。2004年という年は、本学教養学部の前身のひとつである旧制第一高等学校創立130周年にあたることもあり、本学では駒場Iキャンパス内の駒場博物館（美術博物館・自然科学博物館）において「第一高等学校創立130周年記念・駒場の歴史展」（会期：2004年11月1日～12月17日）と題する特別展が開催された。主に第一高等学校の歴史を辿りながら、駒場キャンパスの成り立ちを考えるというのが、この特別展の趣旨である。

駒場博物館は、教養学部に属する美術博物館と自然科学博物館により構成されている。2003年に行われた施設の改装後に両博物館は一つの建物にまとめられて駒場博物館となったが、その後行われた2003年11-12月の「色の音楽・手の幸福－ロラン・バルトのデッサン展」、2004年10月の「彼理（ペリ）とPerry（ペリー）－交錯する黒船像－」とともに美術博物館のみで開催されており、今回の特別展が駒場博物館主催として初めてのものとなった。したがって、展示は1階の美術博物館展示室、2階の自然科学博物館展示室、そして1階から2階へと続く階段の壁面という駒場博物館全てを利用して行われることとなったのである。

2. 特別展「第一高等学校創立130周年記念・駒場の歴史展」

展示構成は大きく4つに分けられた。1874年に誕生した東京英語学校からの歴史を、建物配置図や事務書類、試験問題等から説明する「一高の歴史」（1階南展示室）。当時の学生生活を雑誌や写真で紹介する「寮生活」（1階北展示室）。「一高の教育」については現存する教育用掛図や古い実験機器などで（2階展示室）、「駒場の成り立ち」は駒場農学校時代からのキャンパス内建物配置図などで示した。さらに、古い映像資料（「駒場移転」等）を国立近代美術館フィルムセンターの協力によりDVD化し、上映するスペースも館内に設けた。上記のものに加え、写真や絵画、家具、衣服などを含めた多様な展示物の数は約400点におよんだ。

今回展示された史料の中には、夏目漱石（金之助）直筆の履歴書や内村鑑三の辞表、谷崎潤一郎と和辻哲郎が写っている新旧文芸部写真など有名人に関わるも



「一高門札」

正面左側面下部に「菅帟雄書并刻」と刻まれている。菅帟雄は1901～1939年の間在職していた教師。多くの書を残している。

のも多くあり、来館者の関心を集めた。また、準備段階で発見された「一高門札」は一高終焉時に紛失したものであり、50年以上経過していても良い保存状態で奇跡的に残されていたものであった。展示のために整理された実験機器類は100年以上前のものがほとんどであり、「音響分析器」など現存しているものが世界でも珍しい機器も含まれている。

駒場Iキャンパス内には、1号館（一高本館）や101号館（一高特設高等科）、900番教室（一高倫理講堂）、駒場博物館（一高図書館）など一高時代に建設された建物がいくつか現存している。倫理講堂内には、文武両道のシンボルとして「田村将軍図」と「菅公図」（両図とも小堀頼音作）が正面に掲げられていたことが当時の写真からわかる。両図は教養学部に受け継がれており（美術博物館所蔵）、今回を機に修復し、展示されることとなった。一高図書館内閲覧室にあった



「田村將軍図」、「菅公図」

小堀鞆音による坂上田村麻呂と菅原道真の像。木下廣次校長の時代に蒐集され、倫理講堂に掲げられた（左：田村將軍図、右：菅公図）。明治25年3月購入。

満谷国四郎作「魚市場」（美術博物館蔵）も修復され、当時掲げられていた壁と同じ壁（高さは異なる）に展示された。

約一ヶ月半の会期を、一高時代から伝わる「嗚呼玉杯」（応援団）や「河童踊り」（水泳部）なども行われる駒場祭に合わせることで、かつて学生だった人々と現在学生である人々とが今までになく接近できる機会を設けることができたと思っている。来館者数は6286人（一日平均131人）を数え、この時点までの当館における最高入館者数を記録することとなった。関連企画としては、11月13日の駒場キャンパスにおけるホームミングデーにおいて、特別展の企画に携わった本学教授陣と第一高等学校卒業生によるパネルディスカッション「Glorious Ichiko - 遺産とその継承 -」も行われた。

3. 一高同窓会と「一高コレクション」

特別展で展示された史料は教養学部はもちろん、一高関係者遺族やコレクター等の個人所蔵者のものも含まれているが、その大半は一高同窓会所蔵のものである。約3000人の会員数を誇る一高同窓会は、第一高等学校創立130周年、つまり2004年を機に規模を大幅に縮小することとなった。そこで問題となったのが、所蔵資料の保管と管理、活用をどのようにしていくかということである。

従来、一高同窓会では一高関連資料の収集を行って

きており、所蔵資料の数は約5000件におよんでいる。当然これらの膨大な史料全てを同窓会の事務所に保管することはできず、長野県松本市に旧制高等学校記念館が設立された際、寄託という形で同館に収めることとなった。つまり、今回の展示史料の大半は旧制高等学校記念館から移動されたものなのである。我々が特別展を開催することができたのは、一高同窓会と旧制高等学校記念館の全面的な協力があったからであり、この場を借りてもう一度感謝の意を表したい。

特別展終了後は、一高同窓会所蔵史料の帰属について、教養学部と一高同窓会の間で話し合いの機会がもたれた。その結果、史料の保管場所と管理、活用について責任を負うということで、本学教養学部にて全ての史料が寄贈されることとなった。寄贈史料は「一高コレクション」と名付けられ、それぞれの内容に応じて駒場博物館や駒場図書館、教養学部事務室にて保管されることが決められている。

一高同窓会所蔵史料以外にも個人所蔵者からの史料寄贈を受け、もともと教養学部が存在していたものと合わせて一高関連史料は膨大な数になっている。現在、これらの史料のほとんどは駒場博物館に保管されており、今年度になってようやくナンバリング等の基礎整理作業が始められる環境が整ってきた。将来的には研究者や学生に公開していくことを目標としているが、現状ではそれが具体的にいつになるかはわからないのが実情である。

4. これからの駒場博物館と旧制高等学校関連史料

教養学部の前身であったのは第一高等学校だけではない。戦前に中野に位置し、戦中の空襲により一時的に駒場の一高と校地を共にした東京高等学校は、戦後の1947年になると三鷹に校地を移転するも、2年後の新制大学発足時には第一高等学校と同様に東京大学教養学部になっている。

この東京高等学校出身者によって組織されている東京高等学校同窓会も2005年に事務所の移転、規模の縮小化が行われることになり、約1000件の所蔵史料が教養学部に寄贈されることとなった。第一高等学校関連史料と合わせ、概算で6000件以上の旧制高等学校関連史料が駒場に集められたのである。

「一高」と「東高」という、旧制高等学校の中でも特に重要な2校の関連史料が教養学部に集中したことは、近代史や教育史に関する研究を行う上で非常に有益なことだろう。教養学部、特に大半の史料を預かる駒場博物館のスタッフとして責任は重大であり、一刻も早く史料の公開を行わないといけないと感じている。しかし予算も人員も全くない状況で、どのようにしたら実現できるのだろうか。

個人的な意見だが、それを実現するためには大学博物館である「駒場博物館」を、本学に所属している教員や学生にもっと活用してもらうことが早道であると

考えている。具体的には、年間を通じて行われている授業の中で実物の史料を用い、学生に本物を見る目と取り扱い方法の実践を学ぶ機会を積極的に提供していくことで、この膨大な史料の整理も自然と進んでいくのではないだろうか。

ごく限られた人にしか知られていなかった「美術博物館」と「自然科学博物館」は、2003年秋以降「駒場博物館」という一つの建物内に位置することによって効率的に活動できるようになった。特別展や所蔵品展を年間を通じて行った結果、それまでになく多くの人々に知られるようになっていく。本年度までの2年間で、「展示室」は開かれたものになったと言っても良いだろう。

次年度以降は「収蔵庫」も開かれたものにしないでほしい。特に旧制高等学校関連史料は当館所蔵史料の中でも史料価値が高く、すぐにでも公開されるべきであろう。史料公開に先立つ整理、保存、活用を、教育カリキュラムの中で行うための場を提供するのが、大学博物館の存在意義の一つであると私は考えている。そのためにより多くの人達の協力が必要である。賛同される方がいらしたら、是非一度来館して頂きたい。「駒場博物館」はいつでも開かれている。

(おりも かつや

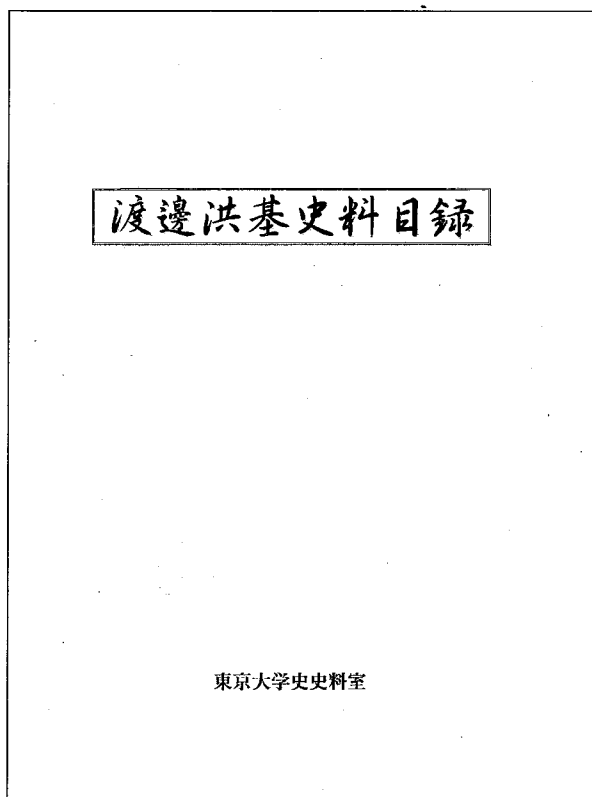
: 駒場博物館 (美術博物館・自然科学博物館))

『渡邊洪基史料目録』の刊行に際して

谷本 宗生

2005年3月、初代帝国大学総長を務めた渡邊洪基(1847~1901年)史料の目録が、所蔵する東京大学史史料室から刊行された。従前『東京大学百年史』編集時に、当時史料編纂所に保管されていた渡邊洪基関係史料について、百年史編集室が史料目録(小冊子)を作成していた。その折りは発行部数が少ないこともあり、渡邊史料目録の周知には残念ながら及ばなかった。

このたび、来たるべき『東京大学百五十年史』の編纂を長期的な視野に入れ、東京大学創設期の分析・考察をいっそう円滑に進めるため、東京大学史史料室の重点プロジェクトとして「東京大学創設期の総長関係資料の基礎的調査及び研究」を立ち上げた。今回新たに書誌情報も加えて刊行した『渡邊洪基史料目録』は、学内外の関係諸機関にひろく配布することを目的とした、2004年度大学史史料室特別事業研究経費に基づくプロジェクト成果の一部である。



『渡邊洪基史料目録』(A4版、52頁)

2005年2月初旬、史料室員の谷本は渡邊洪基の出身地である福井県武生市に關係資料調査に赴いた。まず武生市立図書館にて、福井県及び武生市の郷土図書館から「渡邊洪基」に關係する記事を悉皆調査・収集した。その際、土肥慶蔵(1866~1931年)ら帝国大学生・上京した書生を中心として成立する「武生郷友会」

の創設に、初代帝国大学総長を務めていた渡邊洪基が大きく關係した事實を確認することができた。

「大学の総長室で御目にかかったのです。先生は「今や眼を大きく開けて世界を対象とすべき時代である、小さい郷友会などはよした方がよからう」と高飛車的に出られたが、寛宏の方ゆへ結局我等の希望を容れられて賛成して下さったのはうれしかつた、而して会誌の表紙に見られる「武生郷友会誌」の六字も其節の先生の御筆蹟であります。」(土肥慶蔵「武生郷友会を中心としての先輩の追懷談」『武生郷友会誌』第52号、1930年12月、26頁)

これは、武生資料調査による貴重な情報といえる。その他、『武生郷友会誌』には国事のみでなく、郷土武生の発展にも尽力した渡邊洪基に関する記事が数多く紹介されている。同上会誌の第21号(1900年12月)には、西欧のアングロサクソン人を例にした「自治」に関する渡邊洪基の演説が示されている。

「人は、独立自主他人の補助を籍らず、又制裁を受けず、宜しく一個人各個自治をなすべきなり、一個人の自治を得ずんば、一市一町村一府県郡の自治も、迎望むへからざる而已か、若し労働を好まず、人の恩恵にて生活するに至らば、盜賊は増加し、國産は劣へ、延て國家の品位を汚かすに至らん」(同上書、11頁)

渡邊によれば、独立自主といった自治の精神は地域社会、國家、世界にとってもっとも肝要なものである。では、その精神を養成する方策については、渡邊はどのように考えていたのであろうか。この点は、とくに教育史・大學史上重要な問題と考えられる。

また、武生調査では郷土の偉人らを後世に伝える武生市公会堂記念館(武生市教育委員会文化課、武生市史編纂室、武生立葵会)にて、關係者の方々から貴重なお話しもうかがうことができた。2002年11~12月、武生市公会堂記念館では渡邊洪基没後百周年を記念して、「明治國家のプランナー 渡邊洪基展」(渡邊の書簡や漢詩などの展示を含む)を開催したという。たしかに、武生郷友会に代表されるとおり、1880年代以降の近代日本では青年子弟を中心として、東京と出身・縁故地域との人間關係を確認するための結合組織、いわゆる同郷会が組織運営されていく。近代日本における同郷会の構成は、おおよそ東京に上京して来た学生という将来有望視される青年子弟と、すでに東京にて官吏・教育者・実業家として活躍する地元出身の先輩OB、そして地元地域に在住する役場・学校・会社な

どの地元有力者らからなる。このような関係性に基づいて、想像の共同体が形成・強化されていったのではないかと考えられる（成田龍一『「故郷」という物語 都市空間の歴史学』1998年、参照）。

初代帝国大学総長を務めた渡邊洪基の教育観・大学観については、帝国大学成立史研究とも絡みいまだ十分に解明されていない。初期の帝国大学運営においても、興味深い歴史的な事項は多々ある。下記に、1887年7月の帝国大学卒業式における渡邊総長の演説を抜粋する。

「昨年ノ改革ニ於テ官費生ヲ廢シ其他種々経費上ノ節約アリシカ為メニ前途ノ支障ヲ生セントスルノ感アリ是ニ於テ官私ニ移文ヲ出シ奨學ノ貸費ト予メ就役ヲ約スル貸費トノ二種ヲ勧誘セシニ幸ニ諸方ノ賛成ヲ得テ特別奨励ヲ要スル学科ニ限り本学ヨリ給費若クハ貸費スル者大学院生二十五名文科大學二十五名理科大学二十四名ノ外官私ヲ合シテ殆ント二百余名ノ学資ヲ得タリ依テ今日ニ於テハ卒業生ノ需要多クシテ供給乏シク其予約ノ学資充實シテ之ニ応スル人員ノ寡少ナルヲ憾ムニ至レリ是実ニ世間一般新學術ノ必要ヲ感シタルノ影響ニシテ欣喜ノ至ニ堪ヘサルナリ」（『帝国大学一覽』明治20年度、299頁）

1886年5月、渡邊総長は陸・海軍省や外務省、宮内省や県令といった官公省庁、銀行や鉄道会社、新聞社や同郷会などの民間企業・私立団体に宛て、分科大学生の貸費勧誘と大学院生の優遇・助成の「移文」（回状）を発した（中野実『東京大学物語 まだ君が若かったころ』1999年、参照）。渡邊洪基史料の文書番号67と68は、その草稿である。

渡邊総長によれば、「法律、行政、財政、国際法、医術、衛生、地質、金石、採鉱、冶金、土木、機械、電工、造船、造家、応用化学、薬学、文学等」の学問分野については、「官庁会社及富商豪農等各従事ノ実業上其材ヲ要スルノ日ニ多キヲ加フヘキ必然」であるゆえ、関係分科大学の学生支援を行うように学外へひろくもとめた。また大学院についても、「官庁会社等ニ於テ分科大学卒業生ヲ採用シテ其所要ノ実業ニ就カシメントスルトキハ先其卒業生ニ相当セル給料ノ半額ヲ給与シテ例ヘハ当然五拾円ノ給料ヲ給与セントスル者ナレハ其半額即チ五拾五円ヲ給スルカ如キヲ云フ傍ラ之ヲ大学院ニ入学セシメ其日子ノ一半ハ採用者ノ局部ニ出テテ其命令ヲ奉シテ実業ニ従事シ其一半ニ於テ大学院ニ入り担当教授ノ指導ヲ奉シテ学業ヲ修メ以テ其科ノ蘊奥ヲ攻究シテ卒業」するという、いわゆる社会人大学院、専門職大学院の構想が示された。

創設された帝国大学が国家・社会にとってきわめて実際に有用であることを、分科大学・大学院学生に対する学資支援の要請といった形で表明したのである。帝国大学における学士養成の方策から、近代日本の軍・産・官・学の交錯するネットワーク形成が垣間みられる。『帝国大学一覽』明治20年度によれば、帝国大学の貸費には文部省貸費10名・司法省貸費49名・鉄道局貸費10名・内務省土木局貸費41名・三菱社奨学貸費10名・古河市兵衛奨学貸費6名・藤田組貸費5名・大倉組貸費2名・東京電気灯会社貸費1名・大阪紡績会社貸費1名・住友吉左衛門奨学貸費3名・三井物産会社貸費1名・原亮三郎奨学貸費若干名・坂界鉄道会社貸費1名などがあつた。

今回の『渡邊洪基史料目録』の刊行を機会にして、渡邊洪基史料の活用がより促進されていけば、東京大学史の範疇にとどまらない近代日本の政治史・外交史・教育史などの研究者や、福井県・武生市といった地域郷土史研究団体等にもひろく寄与できると信じる。もっか、近代日本政治史・外交史の領域では瀧井一博氏による研究が進められ、教育史でも1880年代教育史研究会（代表：荒井明夫氏）が渡邊洪基をはじめとする当時の主要な教育キーパーソンに焦点をあてる志向がみられる。『渡邊洪基史料目録』をお手元に必要とされる方は、東京大学史史料室までご連絡いただければ幸いである。

（たにもと むねお：東京大学史史料室員）

受贈図書一覧（抄）（平成17年2月～平成17年9月）

大学アーカイヴズ No.32		東北大学百年史 五 部局史二	
全国大学史資料協議会東日本部会幹事会編集委員会	平成17年 3月	東北大学	平成17年 3月
田中館愛橘会会報 第37号		大学論集 第35集	
田中館愛橘会	平成17年 9月	広島大学高等教育研究開発センター	平成17年 3月
明治初期東京大学法理文学部図書館史		日本歴史 第六八五号	
高野 彰	平成16年11月	吉川弘文館	平成17年 6月
九州大学大学史料室ニュース 第24,25号	平成16年10月	(財)野間教育研究所所蔵学校沿革史誌目録 私立高等教育機関編	
九州大学大学文書館	平成17年 3月	野間教育研究所	平成17年 3月
大学史資料室ニュース 第9号		西田亀久夫 オーラル・ヒストリー	
大阪市立大学大学史資料室	平成17年 3月	政策研究大学院大学	平成16年10月
龍谷大学史報 vol.5		専修大学125年	
龍谷大学史資料室	平成17年 2月	専修大学	平成17年 2月
校史 Vol.16		東京大学本郷キャンパス案内	
國學院大學校史資料課	平成17年 2月	東京大学出版会	平成17年 3月
関西大学年史紀要 第1,2,16号	昭和50年 3月～	研究室紀要 第31号	
関西大学年史編纂室	平成17年 3月	東京大学大学院教育学研究科教育学研究室	平成17年 6月
拓殖大学百年史研究 16号		皇學館大學所蔵 大学史目録	
拓殖大学創立百年史編纂室	平成17年 3月	皇學館館史編纂室	平成17年 3月
広島大学文書館紀要 第2,7号	平成12年 3月	佐佐木信綱記念館だより 第19号	
広島大学文書館	平成17年 3月	佐佐木信綱記念館	平成17年 3月
明治大学史紀要 第7-10,12号	昭和63年 9月～	第二次大戦期の配属将校制度（抜刷）	
明治大学大史資料センター	平成 6年12月	秦 郁彦	平成17年 3月
一高同窓会会報 第376-380号	平成17年 2月～	金沢大学資料館資料目録 1-3	平成16年 1月～
一高同窓会	平成17年 8月	金沢大学資料館	平成17年 1月
アーカイブズ 第19,20号	平成17年 3月,7月	同志社大学 同志社社史資料センター報 第1号	
国立公文書館		同志社大学同志社社史資料センター	平成17年 5月
宮城学院資料室年報—信・望・愛— 第11号		緑丘アーカイブズ 創刊号	
宮城学院資料室	平成17年 3月	荻野富士夫（小樽商科大学）	平成17年 3月
日本近代史概説		大学所蔵の歴史的資料の蓄積・保存ならびに公開に関する研究	
奥田晴樹（金沢大学）	平成15年12月	西山 伸（京都大学大学文書館）	平成17年 3月
関西学院史紀要 第1-6,9,11号	平成 3年 6月～	神戸大学百年史 部局史[神戸大学部局史]	
関西学院学院史編纂室	平成17年 3月	神戸大学百年史編集室	平成17年 5月
立命館百年史紀要 第3,4,13号	平成 7年 3月～	大学基準協会五十五年史 資料編,通史編	
立命館百年史編纂室	平成17年 3月	大学基準協会	平成17年 4月
神奈川大学史資料集 第二十一集		戦争の論理—日露戦争から太平洋戦争まで—	
神奈川大学資料編纂室	平成17年 3月	加藤陽子（東京大学）	平成17年 6月
贊誌 創刊号		カール・ラートゲンの日本社会論と日独の近代構造に関する研究	
日本大学史料館設置準備室	平成17年8月	野崎敏郎（佛教大学）	平成17年 5月
東京大学法理文学部一覽 明治16-17		ZEIT DES INNEHALTENS ERWIN BAELZ AUF REISEN	
谷本宗生	明治17年 2月	ゲルマン スザンネ（ボン大学）	
名古屋大学大学文書資料室資料目録 第1,5集	平成12年10月	集成 学徒勤労働員 補遺	
名古屋大学大学文書資料室	平成17年 3月	福間 敏矩	平成17年 4月
駒大史ブックレット 3,4	平成16年12月	A E R A No22	
駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室	平成17年 1月	井原 圭子（朝日新聞アエラ）	平成17年 4月
青山学院大学プロジェクト95編「青山学院史」シリーズ 第7集		平賀譲×デジタルアーカイブ（ポスター）	
雨宮 剛	平成17年 8月	大学院新領域創成科学研究科環境学専攻大和研究室	
徳川記念財団会報 第 5号		日本女子大学学園辞典—創立100年の奇跡	
徳川記念財団	平成17年 5月	日本女子大学成瀬記念館	平成13年12月
東京経済大学の100年		愛と至誠に生きる 女医吉岡彌生の手紙	
東京経済大学100年史編纂委員会	平成17年 5月	東京女子医科大学	平成17年 5月
近代日本研究 第21巻		国際環境の中のミッションスクールと戦争—立教大学を事例として—	
慶應義塾大学福澤研究センター	平成17年 3月	立教大学立教学院史資料センター	平成17年 3月
京都大学大学文書館研究紀要 第1,3号	平成14年11月	明治初期東京大学講義ノート・医学部 佐々木曠日記 (CD-R)	
京都大学大学文書館	平成17年 3月	川俣昭男	平成17年
W.E.Griffis Journal (1872/1/23-1873/3/25) (抜刷)		東京帝国大学医学部卒業記念写真帖 1920-1924	
藏原三雪（武蔵丘短期大学）	平成17年	谷本宗生	

史料室日誌抄録（平成17年2月～平成17年9月）

- 2月3日（木）～2月5日（土）
谷本室員、渡邊洪基史料調査のため、福井県武生出張。
- 2月8日（火） 大講堂改修工事に伴い、閲覧業務停止(3月末まで)。
- 3月1日（火） 第61回史料保存委員会開催(本部棟11Fにて)。
- 3月2日（水）～3月4日（金）
谷本・瀬川室員、大学改革史料調査のため、広島大学出張。
- 3月15日（火） 谷本・小川室員、旧教育学部組合資料の受入作業。
- 3月31日（木） 鈴木彩子事務補佐員退職。
- 4月1日（金） 事務補佐員、柏木恵美採用。
- 4月4日（月） 今井光之助氏より寄贈資料の受入。
- 4月6日（水） 漆原邑子氏より寄贈資料の受入。
- 4月11日（月） 雑誌『アエラ』の取材撮影。
- 4月13日（水） 一高同窓会の訪問。
- 5月14日（土） 谷本・瀬川室員、日本教育学会個人情報研究会へ参加・報告。
- 5月18日（水） 杉仁氏より寄贈資料の受入。
- 5月29日（日） 畑野室員、五月祭企画展「平賀譲展」での報告。
- 6月15日（水） 大講堂3階倉庫の立上げ。
- 6月16日（木） 谷本室員、第1回分院跡地利用計画策定WGへ参加。
- 7月20日（水） 第62回史料保存委員会開催(本部棟11Fにて)。
- 7月30日（土）～7月31日（日）
谷本室員、旧制高等学校記念館研究セミナーへ参加・報告。
- 9月2日（金） 谷本室員、日比谷高校史料調査。
- 9月27日（火） 渡邊洪基目録の完成。

この間の閲覧者数

学内者 2名
学外者 34名

主な学外閲覧者所属機関

川口短大、小樽商科大、兵庫県立大、朝日新聞、中央大、九州大、宇都宮大、横浜国立大、東北大、京都大、早稲田大、ハワイ大、慶應大、名古屋大、放送大

文献撮影・複写許可件数 31件
調査（照会）件数 102件

題字 森 巨元総長

東京大学史史料室ニュース 第35号

発行日：2005年11月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学史史料室

東京都文京区本郷7-3-1

電話：03(5841)2077(直)

印刷所：株式会社 芳文社

Archives Section of the University of Tokyo

東京都町田市1-18-18